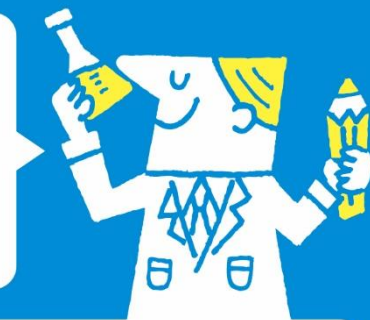


ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 148

「ゾッキ」という言葉をご存知ですか？



繊維業界では筆者の年代であれば 繊維用語として普通の会話でも使っている言葉なのですが ひょんなことから「ゾッキ」という言葉は若い人達には通じないのでは・・・という話になりました。周りの若手たちに聞いてみるとみんな知らないという答えが返ってきます。これも時代の流れで耳にしなくなったという話になっていたのですが・・・筆者の認識とはちょっと違う解釈をしている仲間が・・・ニット生地の担当だった入社間もない頃に教わった「ゾッキ」という言葉は“ゾッキ編み”という分類でニット業界だけの用語と思っていたら・・・織物業界でも「ゾッキ」は当たり前に使いますよとの返事が・・・これは一度整理しておく必要が・・・という訳で今回のテーマは「ゾッキ」です。

ニット業界におけるゾッキ・・・

先ほど書いたように ニット業界では昭和 40 年代中頃から大ブームになったパンティーストッキング業界の編み方として広まったと言われていて 当時のストッキングの編み方には“ゾッキ編み”と“交編”がありニット業界の中でもストッキングの編機でのみ使われる言葉と認識していました。このころのパンティーストッキングは

- ・ ナイロン系のみで編んだもの
- ・ ポリウレタンをナイロンでカバーリングした系のみで編んだもの
- ・ 上記のナイロン系とカバーリング系と 2 種類で編んだもの

の 3 通りがありました。この中で 1 種類だけの糸で編んだものを「ゾッキ編み」と呼び 2 種類以上の糸で編み立てたものを「交編」と呼んでいました。ということで筆者たちは「ゾッキ編み」というのはストッキング業界だけの言葉として覚えていました。



ところが織物業界でも「ゾッキ」という言葉は単一の糸で織られたものすなわちたて糸もよこ糸も同じ糸で織られた 生地というときには当たり前を使うということらしいのです。筆者がニット担当ただけで織物業界でも使われていたとは・・・社会人 45 年目の“初耳”となりました。いつも使っている繊維事典には“ゾッキ”はニット用語として掲載されていました。担当した業界や会社によって用語は意味が異なることもあるので「ゾッキ」も明確な使い方がされてないようです。

といっても「ゾッキ」の意味は単一の素材ということでは統一の認識になっています。単一の素材ということは例えば ナイロン 85% ポリウレタン 15% の SCY 系(シングル カバーリング ヤーン) だけで編んだものも「ゾッキ編み」と呼ぶので 単一素材が組成が 100%というわけではないのです。「ゾッキ編み」といってもナイロン 100%もあればナイロン 85% ポリウレタ

ン 15% のものもあるということです。ナイロン糸と SCY 糸を 1 本ずつ交互に編んだものが“交編”となります。・・・と まとめたいたところでしたが 織物業界ではストッキングの編機が輸入される前から使っているという意見が・・・ニット業界が先と思っている筆者にはまたまた初めての情報で・・・これは簡単には結論が出せなくなってしまいました。

語源をたどる・・・

では ということで調べられるところまでやってみようとなりました。早速 今世間で流行っているインターネットなるもので検索すると(とうの昔から利用されています) いきなり「ゾッキ」の語源となる文面がいくつかヒットしました。恐るべし“今流行り”のインターネットの情報力(だから“今流行り”は余計です)・・・その中で気になった説明を見つけたのですが 語源は北関東の方言が有力で 麦だけで炊いたご飯を「麦飯ゾッキ」などと言っていて そこから北関東地方の桐生地域(現 群馬県桐生市)が絹織物の機織産地(はたおりさんち)だったことから 絹 100%の織物を「絹ゾッキ」というようになってしまった。という説明がありました。・・・筆者の思い込み知識がさらに崩れていきます。



北関東地方の方言ということなので 全国方言辞典を調べてみると

～ぞっき(群馬の方言)

意味 : ~だけ。~のみ。

文章例 : 「昔は、麦ぞっきのご飯もくったもんだ」

(昔は 麦だけのご飯も食べたものだ)

とありました。「ゾッキ」は日本語で群馬県あたりの方言という説明がしっかりと書かれていました。筆者のニット業界がパンティーストッキングの編機の輸入後に「ゾッキ」という言葉は広まったという知識は誤りでむしろ絹織物の桐生産地から広まったと考えたほうが正解のようです。

また別のサイトの用語説明では

～ぞっき

意味 : すべて同じものでまとまっていること。

それだけであること。

文章例 : 「羽おりも着ものも、もめんぞっきではあるが／路傍の石 山本有三著」

と出てきました。なんと作家 山本有三の代表的な小説「路傍の石(ろぼうのいし)」の中にも“もめん(木綿)ぞっき”と記載されているとのこと。筆者の中学時代の教科書か参考書に載っていた小説にも「ぞっき」ということばは使われていたのです。路傍の石を調べると 1937年(昭和12年)に朝日新聞に連載が始まったとあります。さらに山本有三の実家は呉服

商で 栃木県下都賀郡（しもつがぐん）栃木町に生まれたとのこと。北関東生まれで呉服商の息子・・・「ゾッキ」の語源ルーツはここにあったような気がします。しかも「路傍の石」は朝日新聞により全国区となったので「ぞっき」という方言も当時は意味が通じてたということのようです。

ということで 筆者の知識も訂正しておきます。それにしても短時間でここまで調べられた“今流行りのインターネット”はすごいです。（今流行りの・・・はいらないですから・・・）。

原稿担当：竹中 直（チョク）

